資料：陰性感情以外の感情表現抜粋一覧

カテゴリー	感情を示すキーワード	カテゴリーの定義、文献番号と文脈的背景や場面
死の受容		**死を特に高齢の患者にとって不可避なプロセスと捉えたり、自身の対処方法に対する自信から、受容できるものと捉えている**
	自然な受容	⑳「高齢の患者や終末期の患者の死は、専門家により受け入れられやすいことが観察された。これは人生の自然な経過と信じられているからである。」（文献⑳resaultより 原著者本文） 高齢者や末期疾患患者の死は、それが自然な経過でとして専門家に受け入れられやすいことが観察された
	安楽	⑳「あなたが高齢者であるとき、安楽を求め、ケアをする。それは緩和ケアであり、80歳、100歳の人の家族は苦しみを感じているけれど、彼はすでに孫、ひ孫もいて、すでにストーリーを持っている。」（NT4）（文献⑳看護技術者（nursing technician）インタビュー：属性不明） 高齢者の死は受容しやすく、感情は平穏である
	穏やかな気持ち	㉑「高齢の患者を見ると、生きる間にすべきすべての経験を経たと感じ、とても穏やかな気持ちになります。」（文献㉑看護師7（属性不明）インタビュー） ERでの患者の死を若者の場合と対比させた文脈により抜粋。高齢者の場合は医療従事者も若年者のような感情の起伏が起こりにくい
	安堵	㉚「慢性患者の死は、本人とその家族にとって安堵と受け止められる。」（EE2).（文献㉚看護師2：30歳、経験年数4年の女性）インタビューより抜粋
	憧憬（saudage）	㉕「避けられないことではあるが、死は喪失感の表れであり、慣れ親しんだ生活から愛する人を奪い去り、憧憬の念をもたらす（E7)」（文献㉕インタビュー7番目の看護師：属性不明 対象は20－37歳）
	意味付け、受容	㉔「患者の死に意味を与えるような併存疾患やその他の便宜的なものを探す」（文献㉔結果より抜粋） 「.....死は常に、あなたが介入することができない暗闇の隅にある。しかし、死は残念ながら人生の一部なのです。死と同じように、人生も神秘であることを理解しなければならない。それは常に謎であり、これからも謎であり続けるでしょう」（文献㉔看護師）
患者への思いやり		**死を迎えた患者に対して、思いやりや敬意を抱いた経験や場面**
	思いやり、同情	①「職員に付随する患者の死に関連する感情で最も多かったのは、思いやり、悲しみ、無力感であった」 （文献①質問紙による result より抜粋） 患者の死の際に最も感じる感情の種類を院内の部署と経験年数別に分析した調査で、救急部での結果は思いやり(74.29%)、無力感(62.86%)と悲しみ(60%) 、内科病棟での悲しみ(60.61%)と悲しみ(51.52%)であった。分析したどの病院部門においても、看護師が経験しなかった感情の一種が無関心であった。 標本の特徴として経験年数で最も多かったのは40～50歳（41.84％）と50歳以上（29.08％）の看護師で、高学歴（73.05％）、20年以上勤務（54.61％）、既婚（71.08％）であった
	親密さ	⑦「彼女がいずれ死ぬことは分かっていたし、なぜそんなことをしたのかは分からないけれど、帰る前にかがんで彼女の額にキスをしたんだ。なぜそんなことをしたのか、自分でもよくわからないのですが、そのことが彼女のパートナーの心に強く残りました。」(John, SN)（文献⑦ staffnurses 男性：経験年数、年齢不詳） 死を間近にした患者に、自然に触れ、自分でも予期しない親密さを感じた場面（親密さは著者の分析 result and discussioより抜粋）
	肯定	⑧「倒れた男性は、クリスマスのために自分や孫たちのためにお金の包みを用意していました。クリスマスの週で、年金を受け取りに外出していました..」(NC paragraph 281：文献⑧看護師：経験年数、年齢不詳). 蘇生される身体とみなしていた患者に、家族の存在を認知することで「家族や地域社会における患者の立場を肯定するような連想を持つ」（家族との関連、「」内は原著者の分析 result より抜粋）
	親密さ	⑧「私はまだ患者さんに話しかけます。本当にばかげているように聞こえるかもしれないが、私はそうしなければならない（中略）...私はまだその患者と話し、彼がまだ生きているかのように扱わなければならない。」(NB paragraph 436).文献⑧看護師：経験年数、年齢不詳). 救急外来で死体として扱われる患者を、最後まで死者を人間として扱う気持ち（ヒューマナイズ（原著者）の文脈：result より抜粋）
	共感、敬意	⑬「患者の死に対処する専門家の感情について：EOLケア中の救急専門家側のポジティブな感情を報告している。具体的には、EDにおける終末期ケアにおける肯定的な感情として、共感、非プロトコール的ケア、見えないケア（付き添い、積極的傾聴）を挙げている。」 システマティックレビューの結果と考察より、専門家の感情として、「共感」「敬意」が挙げられており、図4より、5つの文献中の15の所見から、「共感ー敬意」が抽出されている。
プロとしての意欲		**プロとしての使命感から自己の役割や仕事を完遂し、成長と捉え職務や人生を前向きに進めようという意思や前向きな感情の表現**
	改善、努力	㉓殴られたり撃たれたりした若者の母親と話す時、私はたくさん苦しんでいますが、それを改善しようと努力しています。(EE2).（文献㉓看護師2：30歳、経験年数4年の女性） インタビューより抜粋。苦痛を感じながらも自分の役割のため、それらを改善しようとしている
	慣れ、冷静	㉓私たちの仕事は命を救い、回復させることであり、それが不可能で患者が死に至ったとき、私たちはとても動揺しました。 しかしそれは毎日経験することであり、ただ慣れていくだけなのです(EE5).（文献㉓看護師5：40歳、経験年数10年の女性 インタビューより抜粋） 外傷死の患者に動揺するが、それらがルーティン化する経験が見方を変え、他の患者のために最も冷静な状態に近づくとする文脈 「慣れている」（看護師5）「影響は受けなくなる」（看護師8：39歳、経験年数3年の女性）
	公平	㉓「慢性的な患者と外傷の患者で、死の感情に違いはない(EE1).（文献㉓（看護師1：24歳、経験年数2-6か月の女性）インタビューより抜粋 外傷死と終末期患者の死に感情の差異はあるかを問う文脈での返答
	成長	㉔また、7人（78％）の看護師が、死期が迫った患者と遺族を救うために、プロとして可能な限りのことをしたと感じており、死別という出来事に個人的・職業的成長の意味を与えていることがわかった（文献㉔原著者による本文 resultより抜粋：調査対象者の平均年齢は37.78歳（±5.01歳）） 半構造化質問のうちの一つ「-死別経験の最終的な意味をどのように理解したか」への回答。死の現場での感情ではなく、体験としての意味づけを問う文脈より抜粋
	満足、平静	㉔「医療従事者の 44.44% が、自分の限界を受け入れ、死にゆく人や遺族を助けるために行ったことを振り返った時に満足感を感じていた。」(Tabella n. 1) 自分の限界を受け入れ、死期が迫った人や遺族のケアに思いを馳せるときの満足感は、医療従事者の44.44%に見られた（文献㉔原著者による本文 resultより抜粋：調査対象者の平均年齢は37.78歳（±5.01歳）） 「死別の受容の段階への回答。サンプルの100％が、その出来事を認識し、また同じような経験をすることを恐れないと表明し、78％は、死が人間の存在に刻まれていることを認識し、尊厳と平静さを宣言した」
	成長、感謝	㉖「私は研修を終えたばかりで全く経験がありませんでした。あの家族に何を話せばいいのか、全くわからなかった。私は泣いていました。今は、このような経験にもっと強く立ち向かえるようになったので、天国に感謝しています。」(文献㉖看護師E:インタビューより）
	満足	㉗「誰かに良い緩和ケアやエンドオブライフケアができること以上の満足はない」（文献㉗中Weatherheadの論文に記載されたインタビューより引用されている。救急看護師と助手に対する調査にて発言されている）
家族との共感		**患者の死に共に対処した家族との共感や関係構築を通した感情体験**
	親密	⑦「親族が帰り際に私にキスをしてくることが何度もあり、プロとしてどうかと思ったこともある。でも、彼女は小さな年配の女性だから、キスして抱きしめてほしいだけならそれは受け入れられると思う。とにかく親密な時間なのだから。」(Annette, SN)（文献⑦ staffnurses 女性：経験年数、年齢不詳） 死を迎える患者やその親族とプロフェッショナルの線を引きつつ触れ合う時間の描写"
	家族への思いやり	㉖「以前は、"よし、自分の仕事を続けよう "と思っていました。でも今はでも今は、死にゆく人と過ごす時間を増やし、家族のためにできることは何でもしてあげたい。 家族のためにできることは何でもするようになりました。」(文献㉖看護師A：インタビューより）
	家族への思いやり	⑯「家族が受容できるように支援したい」「最後の時を穏やかに過ごしてもらいたい」「短い時間の中でも家族が安心できるようにしたい」カテゴリーとして抽出された看護師による家族とのかかわりの中での思い。
祈り		**患者の死に際して宗教的な理解や信仰による心の支えが祈りの形として表れた感情体験**
	祈り	⑧「 別の看護師は、処置をしながら『主の祈り』を唱えた。」「（遺体を並べる）そういうとき、私は祈りを唱えます」(NC paragraph 314).（文献⑧ 看護師；属性不明） 遺体の処置の間もその人が生きているように祈りを捧げる（result より抜粋）